



鹿児島県言語聴覚士会ニュース

今号目次

巻頭言
1-2ページ

新人紹介
3-4ページ

事務局通信
5-6ページ

地域局
7ページ

社会局
(公共事業・保
険)
8ページ

社会局(広報)
9ページ

学術局
(新人教育)
10ページ

学術局
(生涯学習)
11ページ

学術局(成人)
12ページ

学術局(小児)
13ページ

財務局
編集男誌
14ページ

巻頭言

鹿児島県言語聴覚士協会 副会長 竹中 恵太

県士会会員の皆様、平素より県士会の活動に対しご理解とご協力いただきありがとうございます。ひと雨ごとに秋が深まる季節となってまいりましたが、皆様におかれましてはお変わりなくお過ごしでしょうか。本年はCOVID-19の影響により、普段の臨床活動や研修会、日常生活の大きな変化に加え、7月の記録的大雨や台風10号といった自然災害も例年以上に猛威を振るっています。被害にあわれた方々には心よりお見舞い申し上げます。

私は、昨年度まで社会局公共事業・保険部理事を担当させていただいておりましたが、この度COVID-19対策としてWEB開催しました、第10回定期総会にて副会長に就任しました竹中と申します。田場前副会長のような牽引力や発案力には欠けますが、自身にできることを一つずつ確実に進めていき、会員の皆様に寄与できるよう尽力して参ります。どうか宜しくお願い致します。

さて、県士会ではCOVID-19の影響があるものの、県や他団体からの依頼は多く、様々な策を講じながら対応しております。介護実習普及センターの介護研修会やPOS連絡協議会委託事業(お達者クラブ)、地域リハ会議の講師などの講師派遣。また、県の委託事業として、失語症者向け意思疎通支援者養成事業があります。前回の県士会ニュースでも失語症者向け意思疎通支援者養成事業が紹介されましたが、今回は現状を詳細にお伝えしたいと思います。

失語症者向け意思疎通支援とは、失語症者の症状や日常生活の困難さを理解したうえで、会話の支援や外出場面での意思疎通の支援を行うことであり、40時間の必修科目を修了し、名簿登録された方が失語症者向け意思疎通支援者となります。鹿児島県においても令和2年度当初は全9回の講習会を8月から開始予定でしたが、COVID-19の影響により令和2年11月1日から開始の運びとなりました。カリキュラムは、概論や失語症のある人の日常生活とニーズといった講義が12時間、コミュニケーション支援や外出同行支援といった実習が28時間の計40時間となっています。今年度の募集定員は10名としており、9月中旬で一般の方や言語聴覚士の方など5名以上の応募をいただいております。募集期間は令和2年8月17日から10月2日となっておりますので、興味のある方は是非ご応募ください。以前、実施したわたくし共の調査で、鹿児島県の言語聴覚士が年間に1400名以上の失語症者と関わりを持っていることがわかりました。そのような中、今回の失語症者向け意思疎通支援事業のように国が我々言語聴覚士の職域に目を向けた意義は大きく、これまで諸先輩方や当事者の方々が働きかけてきた結果だと思えます。現在、私を含む8名の県士会会員で失語症支援者養成委員会を組織し、WEB会議にて事業の準備を進めております。この失語症者向け意思疎通支援事業がより大きな社会貢献事業となり、国が我々の職域に注目しているこの機会を活かし、今後益々言語に障害のある方や言語聴覚士への理解を深める好機とできるよう、働きかけていきたいと思っています。そのためには会員の皆さまのご理解・ご協力が不可欠となります。目の前の対象者のため、言語聴覚療法の質の向上と提供体制の充実という目標に向かって、県士会会員一丸で取り組んでいきたいと考えています。どうぞ宜しくお願い致します。

最後に、9月26日には県士会としての新しい取り組みとなります、オンラインでの基礎講座や新人教育研修が開催される予定となっております。県士会も新しい生活様式に合わせながら、会員の皆様の活動に貢献できる方法を模索しております。より良い会の運営には皆様からのご意見が貴重なものとなりますので、是非、各地域局理事との連絡先を改めて確認していただき、様々なご意見ご要望をいただければ幸いです。

鹿児島県言語聴覚士協会 副会長 竹中 恵太

新人紹介 |

南鹿児島さくら病院 坂下詩織

私は令和2年3月に鹿児島第一医療リハビリ専門学校を卒業し、現在、医療法人日章会南鹿児島さくら病院で言語聴覚士として勤務しております。当院は、整形外科、内科、リハビリテーション(以下、リハビリ)科等を標榜する病院です。リハビリの提供体制は、回復期リハビリ病棟、療養病棟、外来リハビリ、通所リハビリ、訪問リハビリに分かれており、私は回復期リハビリ病棟に携わらせていただいています。主な対象疾患と致しましては、脳血管疾患、肺炎後廃用症候群です。

入職当初は、自身の言語療法に関する知識不足や技術の未熟さを痛感し、悩むことが多くあり、今後言語聴覚士としての役割を果たすことができるのか不安でいっぱいでした。しかし、言語聴覚士の先輩方からのご丁寧な指導やアドバイスにより、訓練プログラムの立案の仕方や患者様への対応など日々多くのことを学ばせていただき、少しずつではありますが、言語聴覚士として必要な技術を習得できるようになりました。また、他職種の方々にも積極的に質問させていただき、移乗方法やADLの獲得についても学ばせていただいております。

現在、摂食嚥下と高次脳機能の分野をメインに携わらせていただいておりますが、アプローチをしていくうえで患者様の状態が少しずつ変化していくのを目の当たりにし、その変化をセラピストのみでなく患者様自身が感じてくださることでリハビリに対する意欲につながっていることが私自身のやりがいとなっております。

入職から半年が経とうとしていますが、これからも学ぶことは多くあり、言語聴覚士としてのスキルを磨くためにはより一層努力が必要な状態です。患者様から信頼され、様々な分野で活躍できる言語聴覚士になれるようこれからも日々精進していきたいと思っております。



新人紹介 II

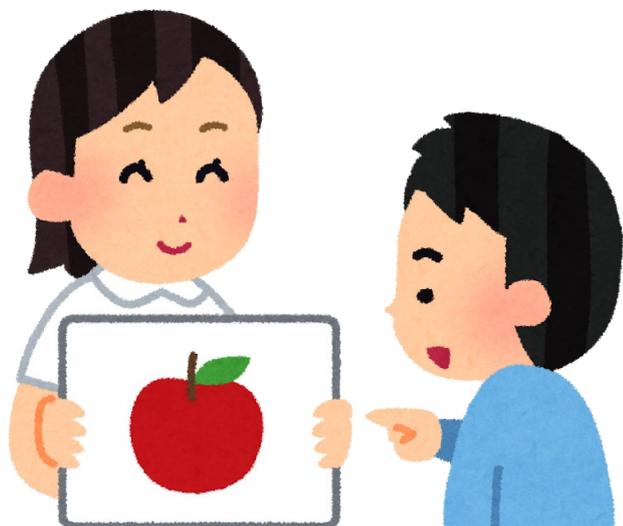
いちき串木野市医師会立脳神経外科センター 森木あすか

私は令和2年3月に鹿児島医療技術専門学校を卒業し、現在はいちき串木野市にあるいちき串木野市医師会立脳神経外科センターで言語聴覚士として勤務しております。当院は、脳神経外科専門病院として地域の救急医療から急性期治療、回復期リハビリ、外来維持期までの一貫した医療を提供しており、その中でも私は急性期、回復期病棟のリハビリテーションに携わらせて頂いております。

入職して約半年が経過し、少しずつ職場の雰囲気慣れてきましたが、その中で担当患者様も増え、自分の知識不足や未熟さを痛感しております。臨床現場では、学校で学んだ知識だけでは対応できない部分も多く自分1人では解決できないことがたくさんあります。そんな時は臨床実習で教えていただいたことを思い出したり、先輩療法士に相談したり、他職種の方に質問するなどして周囲の方々のサポートを受けながら日々悩みや疑問を解決しています。

実際に臨床に出て、日々の仕事やカンファレンスなどを通して強く感じていることは、他職種連携の大切さと難しさです。まだまだ私は知識不足であり、なかなかSTの立場から何か意見を言うことができず力不足を感じる事が多いので、積極性を持って日々勉学に励み、医療人として1日でも早く患者様の力になれるよう努力し続けたいと思います。

これからも患者様への思いやりを忘れず、常に向上心を持って先輩療法士の様な立派な言語聴覚士を目指して日々精進していきます。



事務局通信

平素より本会の活動に関しましてご協力頂き誠にありがとうございます。

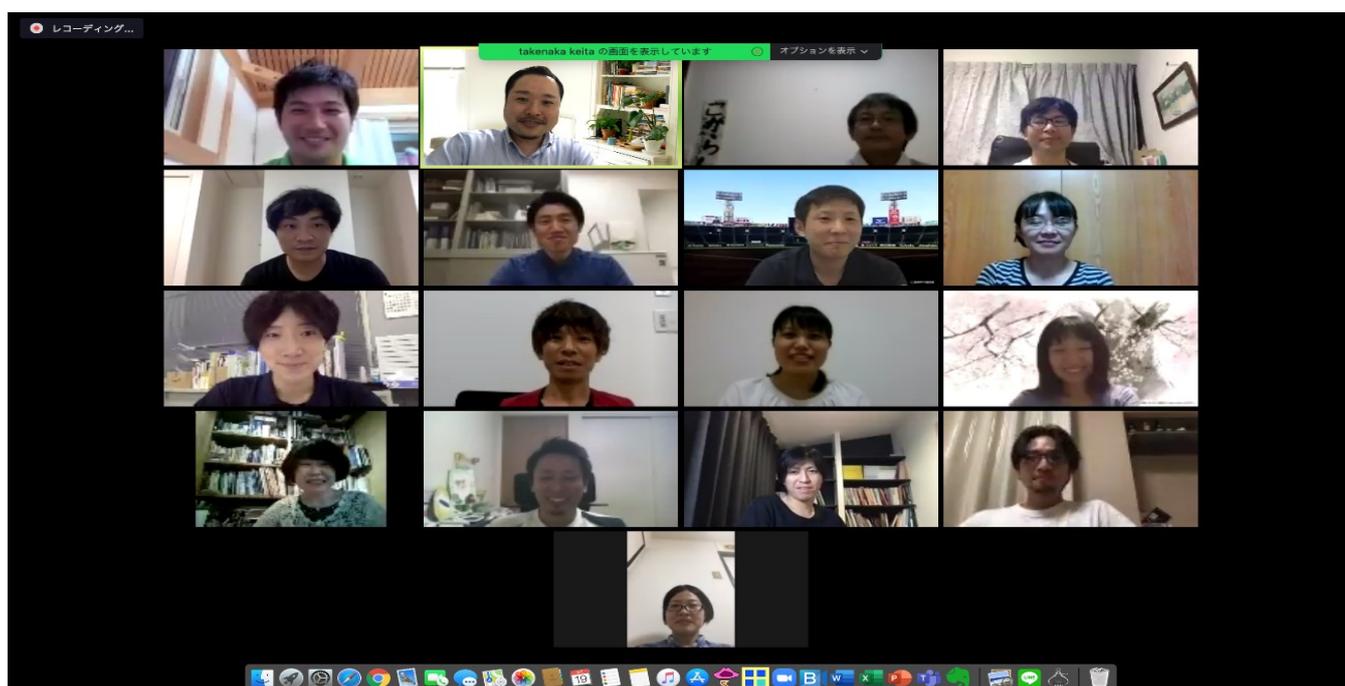
さて、令和2年5月17日に社員総会を開催致しました。今年度はコロナ禍ということもあり、最大限の注意を払い、また急遽参加できなくなった方々にはオンラインで参加して頂く形をとりつつ開催させて頂きました。実際のところ、社員総会を開催するか否か、延期するのか、開催する場合にはどのような配慮をしなければならないか等、入念かつ多くの時間を費やし検討致しました。コロナ禍ではありますが、県士会事業は自治体との関わりも非常に強く、県や他職能団体との協働事業の推進や、会費を頂いている会員各位に対し、県士会主催の研修会等を進めるためには、どうしても社員総会を実施する必要がありました。すべての理事が知恵を振り絞り、何とか開催することができました。また、今年度より総会の出欠票や委任状の提出はオンラインで実施させて頂き、多くの会員各位のご協力を賜りました。この場をお借りし御礼申し上げます。

現在理事会においてもオンラインにて開催しております。実際に顔を合わせた理事会ではありませんが、オンラインでも活発な議論がなされています。

今後も見通しが見えない状況ではありますが、鹿児島県のコミュニケーション障害・嚙下障害のある方々、県民、そして会員各位にとって意義のある会となるよう、理事一同精進してまいります。

今後ともご協力の程よろしくお願い申し上げます。

↓オンラインでの理事会の様子です



事務局通信

動向(4月～8月)※3月までは総会資料に記載

4月(オンライン)

- ・令和2年度生涯学習プログラムポイント対象研修会(5.17)中止について全国協会へ報告した。
- ・指宿市発達相談会への講師派遣について検討され、菊野病院に依頼することとした。
- ・社員総会の実施方法について検討された。
- ・今後の理事会開催方法について検討された。

6月(オンライン)

- ・令和2年度全国協会活動支援金について説明がなされた。
- ・鹿児島市口腔保健連絡協議会委員推薦について検討され、熊倉氏(米盛病院)を推薦することとした。
- ・失語症支援者養成委員会委員追加について検討された。

7月(オンライン)

- ・鹿児島県新生児聴覚検査に係る手引書作成検討委員会の委員推薦について検討され、櫻井氏(やまびこ医療福祉センター)を推薦することとした。
- ・オンラインにおける研修会開催方法について検討された。
- ・言語聴覚の日イベント開催について検討された。
- ・鹿児島県介護実習・普及センター主催研修会の研修会予定について報告があった。
- ・鹿児島市地域リハビリテーション活動支援事業に関して報告があった。
- ・失語症支援者養成委員会について報告があった。
- ・全国協会春期都道府県士会長会議の報告があった。

8月(オンライン)

- ・令和2年度失語症者向け意思疎通支援者養成研修会事業業務委託に係る見積書提出について報告があった。
- ・ホームページ上における届け出書類のデータ化について検討された。
- ・小児言語聴覚療法におけるアンケート調査について報告があった。
- ・新人教育研修および基礎講座の実施方法について検討された。
- ・言語聴覚の日イベントについて中止とし、リビング新聞への広告掲載を行うことが報告された。
- ・介護予防地域ケア会議(鹿児島市)について報告があった。
- ・令和2年度保険者機能強化支援事業における専門職アドバイザー養成研修について説明がなされ、石原理事、樋渡理事が参加することとした。
- ・鹿児島市地域リハビリテーション活動支援事業に関して報告があった。
- ・失語症支援者養成委員会について報告があった。

令和2年8月理事会承認 総会員数513名(正会員511名、賛助会員2名)

事務局 松尾 康弘

地域局(霧島・始良地区担当)

9月6日から7日にかけて九州に接近した台風10号に際しまして、スーパーでは、カップラーメン、惣菜パン、ホームセンターではブルーシートなどが完売し、鹿児島県の皆様が台風に備えていました。幸い大きな被害がなく、安堵いたしました。



さて、ご周知のように、新型コロナウイルスの影響で、数々の研修会を軒並み中止とせざるを得ない状況が続いておりましたが、学術局の理事を中心に研修会開催の準備を進めて参りまして、9月26日に鹿児島県言語聴覚士会主催の研修会を再開することが決定しました。今後は各地区の研修会におきましても、再開に向けて準備を進めて参りますので、皆様も万全な「備え」で研修会にご参加いただき、鹿児島県言語聴覚士会を一層盛り上げていただけますことを期待しております。

ところで、2019年12月の理事会におきまして、始良霧島地区の地域局担当理事 東さんから、私、有川瑛人が理事を引き継ぎました。鹿児島県の言語聴覚療法の普及と発展に向けて、尽力して参る所存でございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

加治木温泉病院 有川瑛人

社会局(公共事業・保険担当)

令和2年度より、竹中恵太さんの副会長就任に伴い、樋渡が新たに社会局(公共事業・保険)を担当させて頂くことになりました。不慣れな部分も多々あり、ご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、いち早く皆様のお役に立てるように努めたいと思います。

公共事業として鹿児島県介護実習・普及センターよりご依頼いただきました介護講座講師9件を中心に、順次各地での講習会等へ講師派遣を行っております。しかし、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止により、研修会の中止・延期する事がありました。これまで5回分の研修会を無事に終了する事ができました。研修会に参加された介護職員や、介護しているご家族からは、食事介助の方法や食事形態、拒食の対応など、実際の生活場面で悩んでいる質問も多く、摂食嚥下領域の関心の深さと熱意を感じました。

令和2年度の診療報酬改定においては、「多職種チームによる摂食嚥下リハビリテーションの評価」や「呼吸器リハビリテーション料・難病患者リハビリテーション料の実施職種への言語聴覚士追加」、「言語聴覚療法のみ実施する場合についての脳血管疾患等リハビリテーション(II)の要件見直し」が追加されました。診療報酬・介護報酬に関しましては、複雑な内容の問い合わせの場合、安易に答えられないため日本言語聴覚士協会に問い合わせてもらうこととなりますが、疑問を持たれた点を県士会全体で共有するためにも、まずは気軽に県士会に問い合わせさせていただきたいと考えております。

鹿児島県言語聴覚士会お問合せフォーム: <http://st-ba.net/contact/>

公益社団法人 鹿児島共済会 南風病院
リハビリテーション科 樋渡 健太郎
[TEL:099-226-9111](tel:099-226-9111) FAX:099-805-2509

社会局(広報)

令和2年度 「言語聴覚の日」に 関する広告掲載の報告 (リビング新聞)



一般社団法人鹿児島県言語聴覚士会では、毎年、言語聴覚の日である9月1日付近に言語聴覚の日のイベントとして「ことばの相談会」を行なっておりました。今年度においても、早い段階より鹿児島市内のイオンモール鹿児島様と日程調整させていただき、「ことばの相談会」を何とか実施出来ないか検討しておりました。しかしながら、鹿児島県内でも新型コロナウイルスの感染状況がなかなか収束しないこと、また、医療施設においてクラスター感染が確認されたこともあり、今年度の開催は中止させていただきました。

例年「ことばの相談会」では、ことばに関し気になること全般の相談をいただいております。毎年このイベントに来てくださっている方もいらっしゃっておりました。毎年開催していく中で、徐々にではありますが言語聴覚士の名前や業務内容が浸透してきている事を感じ、楽しくイベントが開催出来ていたのですが、今年度に関しては残念ながら中止とさせていただきました。今後、少しずつ現在の感染状況が改善されていることを願い、来年度は実施出来ることを期待したいと考えております。

さて、言語聴覚の日のイベントは「ことばの相談会」だけではなく、例年、鹿児島市内を走る路面電車の側面に「9月1日は言語聴覚の日」とプリントした車両を走らせていただいております。こちらに関しても、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響より、公共交通機関の利用者が減少する事が予想されました。そこで今回は、言語聴覚障害を抱えた方や言語聴覚士へ関心を持たれている方、また広く一般の方に対して本土会を紹介させていただきたく、リビング新聞(発行:南日本リビング新聞社)へ広告を掲載させて頂けることになりました。

「リビングきりしま」には8月8日号にて、「リビングかごしま」には8月22日号にて「9月1日は言語聴覚の日」と大きく掲載させていただきました。会員の皆様はすでにご覧いただけましたでしょうか?? バックナンバーをリビングかごしまWebよりご確認いただけます(URL: <https://mrs.living.jp/kagoshima>)。もしよろしければご確認ください。

9月1日は言語聴覚の日であること。また、言語聴覚障害に関する社会的認知が広がることで、困難さを抱えられている方に対し、一人でも多くの方に対する支援へと繋げていく事が出来ればと考えております。

今後も、社会局広報部では、県士会活動および言語聴覚士の専門性が活かせるようなイベントに積極的な参加を考えております。今後も会員の皆様の協力が必要です。ご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。

社会局広報 小牧 祥太郎

学術局(新人教育)

新型コロナウイルス感染症の流行に合わせた生活様式も徐々に浸透してきた感のある今日この頃ですが、皆様の生活にも変化はありましたでしょうか？

どんな生活環境であっても少なからず影響はあることと思います。多くは新型コロナウイルスと共存していく上で窮屈さを感じるばかりですが、リモートでの作業環境が急速に発展し普及したことは、様々な分野においてプラスに作用することもあると考えます。

鹿児島県言語聴覚士会におきましても、9月26日にはじめてのWeb環境での研修会(基礎講座、新人教育研修会)を開催します。主催者としてもはじめてのことなので、準備の段階から悩むことも多くありました。当日終了するまでは安心できませんが、今後、回を重ねながらよりよいWebでの研修会ができるよう努めてまいります。離島も多い鹿児島県においては、このような形式での研修会が開催していけるようになることは、とても意義のあることだと考えています。

今後もWebも含めて、時代のニーズに応じた形態、内容の研修会を企画していきたいと思っておりますので、皆様のご意見をどしどしお聞かせ下さい。

米盛病院 石原 禎人

Tel 0992-30-0100 Fax 0992-30-0101

学術局(生涯学習)

先ずはご挨拶をさせていただきます。本年度より学術局 生涯学習担当を拝命致しました鹿児島大学病院の小倉道広と申します。会員の皆様におかれましては、日頃より真摯に臨床に取り組まれる中で、専門職としての知識と技術を研鑽されていることと存じます。言語聴覚療法は先達の絶え間ない努力の礎の基で成り立っている事を忘れぬよう、鹿児島県言語聴覚士会が職能団体として同じベクトルで今後の発展に寄与できるよう、学術局一同 微力ではありますが精進して参りたいと思います。

令和2年9月26日(土)には、基礎講座3「職種連携論」・基礎講座4「言語聴覚療法の動向」(講師:城西ナーシングホーム 染川 眞喜代氏)を開催しました。当県士会では初めてのWeb開催ではありましたが、皆さま方のご協力のもと無事終えることができました。

今後も、会場とWebを併用したハイブリッド形式の研修会や講義が常態化することが予測されます。新しい時代の流れを好機と捉え、これまで様々な事情で研修会や講義に参加することが難しかった方々にとっても、継続して学習に取り組み易くなるような環境作りの構築に取り組んで参ります。

会員の皆様には、様々なご協力をお願いすることが多々あるかと存じますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

学術局 生涯学習担当
鹿児島大学病院 小倉道広

学術局(成人)

平素より鹿児島県言語聴覚士会の活動にご参加いただき、誠にありがとうございます。成人学術局担当の加治佐彩です。

成人学術局では令和2年5月17日に国際医療福祉大学成田保健医療学部言語聴覚学科の倉智雅子先生をお招きし、摂食嚥下障害についての研修を行う予定で準備を進めておりましたが、新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため中止とさせて頂きました。講習会参加を考えていた会員の皆様、大変申し訳ございませんでした。また新型コロナウイルス感染予防の観点から、現時点で成人学術局の今年度の研修の開催は未定となっております。新たな研修会の形を模索し、会員の皆様に提供できるように準備を進めていきたいと考えております。会員の皆様にはご理解ご協力のほど、よろしくお願い致します。

〒898-0011 鹿児島県枕崎市緑町220番地
社会医療法人 聖医会 サザン・リージョン病院
リハビリテーション部 加治佐彩
TEL: (0993) 72-1351 FAX: (0993) 72-2128

学術局(小児)

<報告>

○小児言語聴覚療法におけるアンケート調査結果○

去る令和2年7月16日～8月18日まで「小児言語聴覚療法におけるアンケート調査」を実施いたしました。県内の小児言語聴覚療法の実態を詳しく把握し、県士会事務局へお問い合わせがあった場合の情報提供や、今後の活動内容として活かしていくために、皆様のご意見等をお聞かせ頂き、51施設から回答をいただきました。結果を公表いたします。

[小児言語聴覚療法におけるアンケート調査結果](#)

皆さまからいただいた貴重な意見を今後の県士会活動に活かしていきます。ご協力いただきましてありがとうございました。

○鹿児島発達STネットワーク(LINEグループ)○

県士会にて鹿児島発達STネットワークというLINEグループを運営しております。研修会の案内や発達障害に関するメディア情報、論文の紹介等、情報共有の場としております。

地域局より別途案内をお送りする予定です。

株式会社 L-はびねす
学術局(小児) 西野 将太
Tel 099-828-8404
Fax 099-828-8404

財務局

会員各位

平素より県士会活動にご協力賜りありがとうございます。
財務局担当 いづろ今村病院 鎮守です。

会費納入にもご協力頂きましてありがとうございます。口座登録をしてくださっている会員の方につきましては6月、7月に引き去りをさせて頂いております。ご確認よろしくお願い致します。領収書が必要な方はご連絡いただけますと送付いたしますのでお知らせください。

今年度の会費を納めておられない会員の方は納入をよろしくお願い致します。また、まだ口座登録がお済みでない会員の方はできるだけ口座登録をしていただけますようよろしくお願い致します。

口座振替用紙につきましても、送付致しますのでご連絡ください。

いづろ今村病院 リハビリ室 鎮守美和

TEL(099)226-2600

FAX(099)225-5181

kago_st@yahoo.co.jp

編集男紙

皆様、新型コロナウイルスの影響で思い通りにいかない日々をお過ごしのことと思います。仕事も私生活も新しい生活を強いられる中、今後の未来に変化をもたらしてくれそうな菅内閣も発足しました。これまでの政治の在り方に一太刀メスを入れてくれそうな予感。国民からの期待は支持率にも結果として見られています。我々STも職場内での在り方を顧みる時では？ある時は補助役、ある時は主役になりスタッフ内での主導的な言動を起こさなくては！！と思うことが増え、日々研鑽していかなくてはと感じます。有言実行、日進月歩。皆さんのペースで自分なりの素敵なSTを目指していきましょう。

編集者より